

戸隠 西窟尾根～八方睨

矢野

【日時】 2007年12月23日(日)～24日(月)

【メンバー】 L小暮、笹川、大田原、矢野

12月23日(日) 晴れ

崩れると思っていたが、思いの外天気が良い。駐車スペースから参道を歩いて随神門へ。朝も早くから参拝者数人とすれ違う。随神門の前を横切る散策道を左に入って歩くこと30分、神社を見てその裏手から西窟尾根に取付く。雪はわかんを履いて靴上程度で、登りの一部、雪付きが悪い部分で膝上程度まで潜る。暖かい日の光を浴びて汗と共に頭上の木々から滴が流れる。徐々に稜線は鋭くなり、傾斜も増してくると藪を掴んでの「どっこいしょ」となり、すぐに第一岩峰をむかえる。特に問題となるところはないものの、雪の付きが悪く、足の置場には注意が必要だ。そこを通過し第二岩峰をむかえる。岩峰に正対して見ると随分と立っていて雪も所々のっており、直登、水平トラバース共に我々の腕では難しそうだ。水平トラバースラインにはボルトが打ってあり行くことも考えたが、いかんせん支点が少ない。最終的に右側のルンゼを懸垂し、そこからトラバースして岩峰を巻くこととした。ザックを残し、5m程度懸垂して藪にのっただけのような雪に下り立ち、立木に支点をとってトラバースを開始する。そこからは岩峰の凹凸でバランスをとる程度で、それだけでは足元の雪が崩れたら到底支えられそうにない。回り込んでビレイヤーが見えなくなったらすぐに太い立木で支点が取れ、一安心。そこからはほぼ直上して稜線に。ロープを固定して後続を待つ間、頭上からの滴に身体が冷え、先に戻ってザック回収しておけば良かったと後悔する。ここでのロープワーク、意思疎通に手間取り、約2時間と予想以上に時間がかかってしまう。

第二岩峰を越えても暫く鋭い稜線が続くが、特に問題はなくペースを上げていく。日が傾き始め、適地があれば幕営することも考えたが、小暮さんの猛烈なラッセルにより16:30頃、予定通り西窟に到着して幕営。



【第二岩峰】

12月24日（月）雪

雪が舞う中11:00を引返しのタイムリミットと決めて出発。鎖が部分的に出ており、それらを利用して登ること1時間程度で蟻の戸渡に到着する。全面に雪がのっており、稜線と雪庇の境がわかり難い。50mロープを連結して小暮さんリードで慎重に歩を進める。一つ目に鎖、二つ目にスノーバーとランニングを取り、ようやく対岸へ渡る（と言った方が感じをつかめる）。ロープを固定して後続3人が渡る。最後の矢野、残りわずかの部分で進行方向右側の雪を踏抜いて少し滑落。ロープを固定してあるため問題はないものの、「ああこういう少しの足の置き場の違い、バランスの取り方の違いで人は簡単に落ちていくものなのだなぁ」と実感。ロープ1本は帰りのために固定して残していく。そこからは八方睨までわずか20分程度で、直下の鎖場を登ると山頂に出る。八方真っ白で展望はなく、正月山行のためにガスとお酒とつまみを50cm程度埋めてデポし、早々に下山を開始する。帰りは蟻の戸渡を通過後、往路は平易に登った鎖場4箇所を懸垂交えて幕場に戻る。天幕撤収、腹ごしらえをした後夏道ルートを下山開始。夏道ルート上、西窟の祠、百間長屋、五十間長屋と奇勝を通過して、昨日のものと思われるトレースを利用してもらいながら楽々と奥社へ。大田原さんは奥社を参拝、その他のメンバーは、参拝は正月山行の下山後と約束し、帰路につく。



【蟻の戸渡】

地形、雪の付き方、気圧配置と実際の天候などを少しでも理解できたことは、正月山行の成功に向けてとても有意義であった。

【行程】 12/23 奥社(8:15)～西窟尾根取付(9:10)～1410m(10:30)～西窟BP(16:30)
12/24 BP(7:20)～八方睨(10:30)～BP(13:00/13:50)～奥社(14:45)

【地図】 高妻山